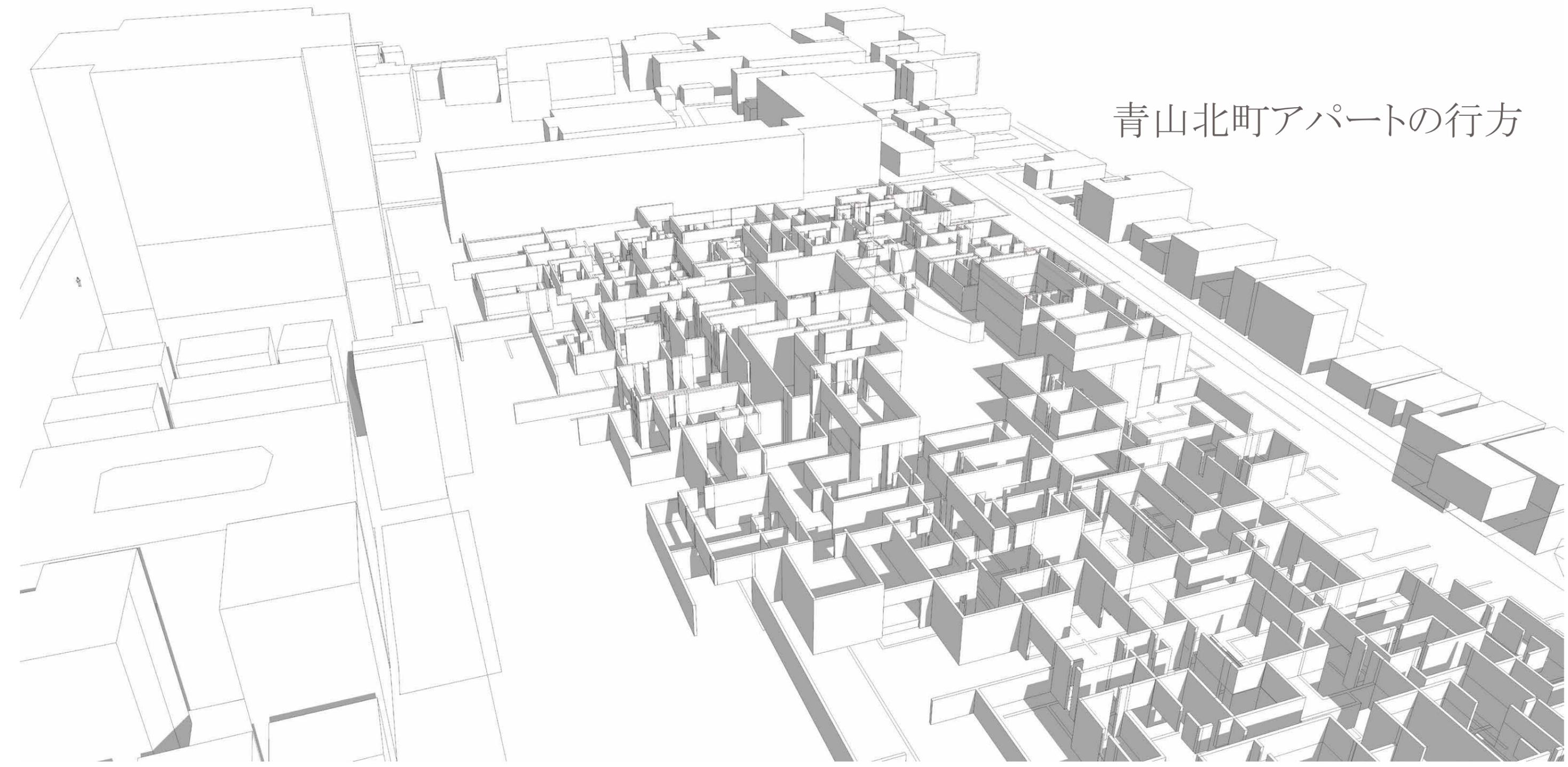
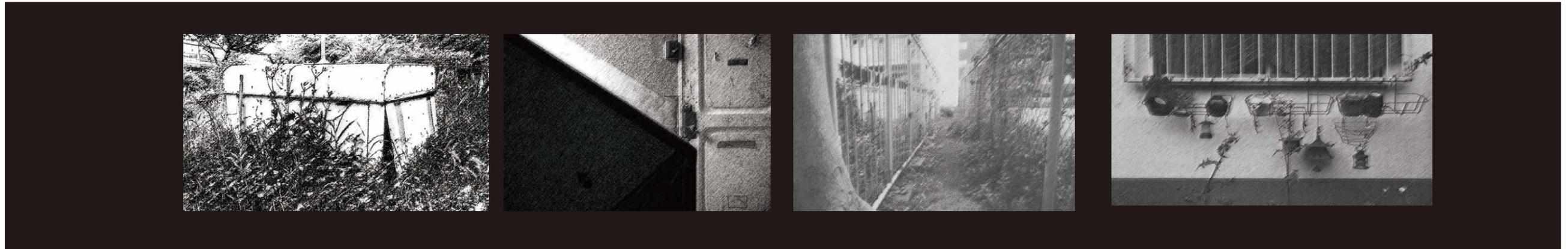


青山北町アパートの行方

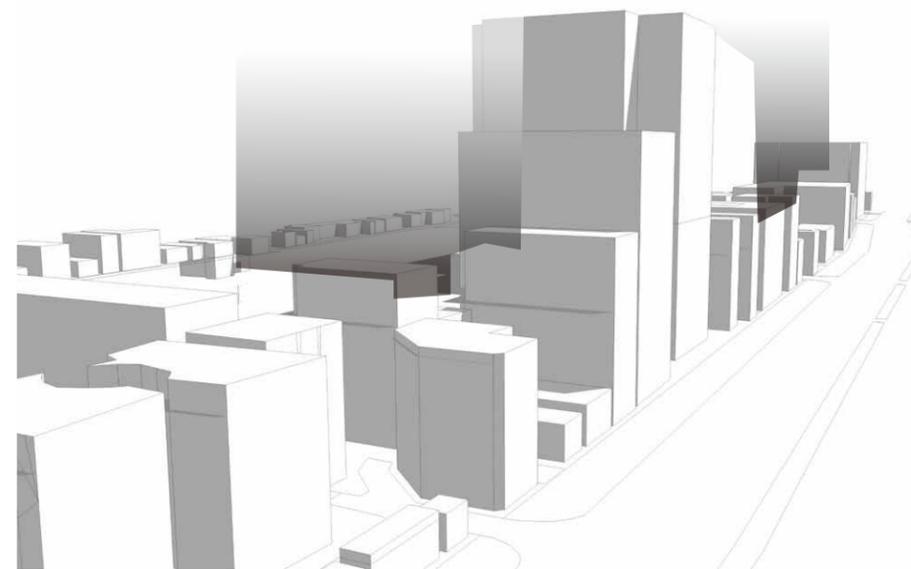


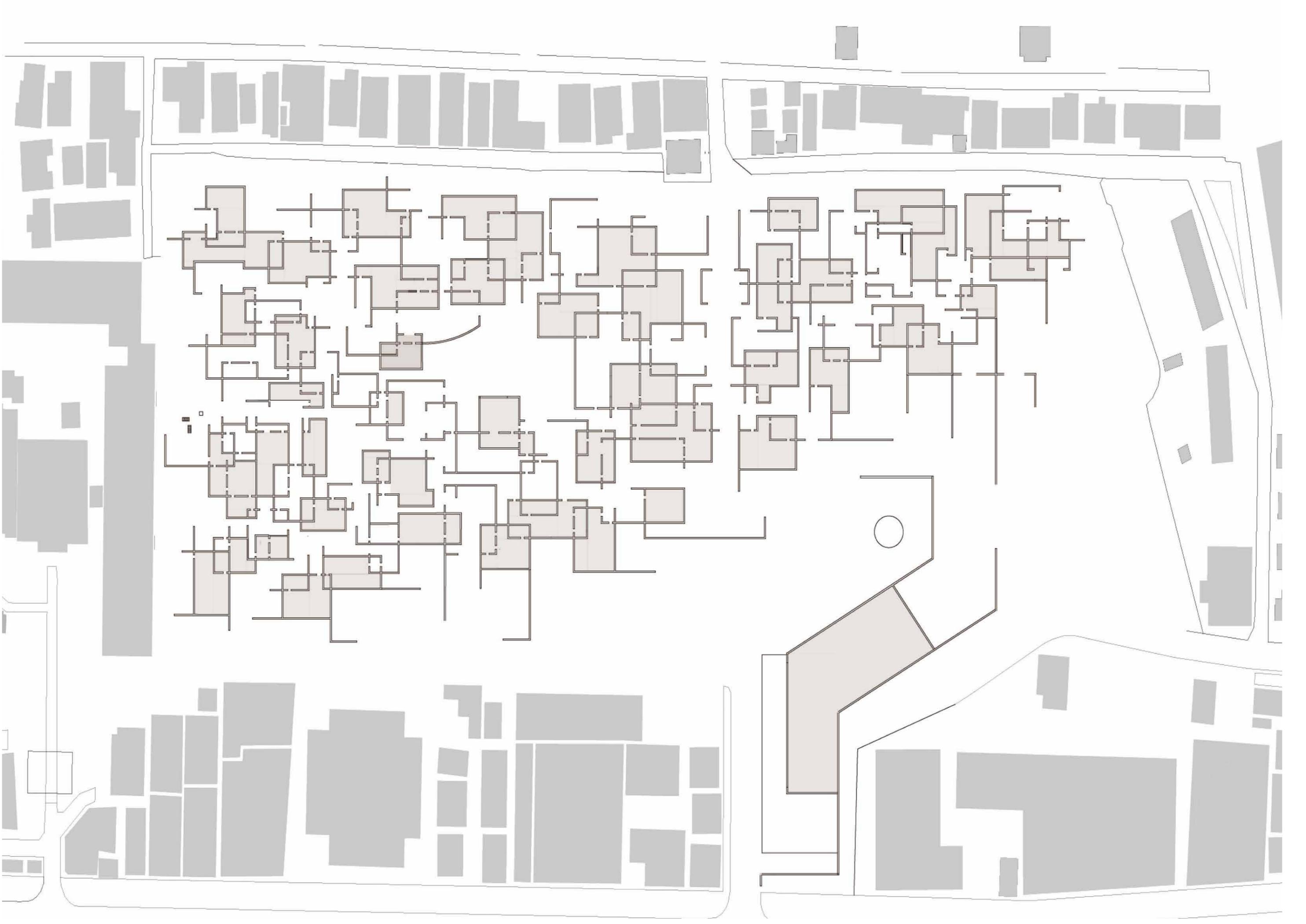


青山三丁目に時代と発展に取り残された大きな団地があります。そこは青山通り沿いの高いビル群に遮られ、影に隠れるようにひっそりと郡をなしています。今でも児童館など教育の場としても利用されていて、団地の入り口に立てば、子供たちの声がします。離れると大通りの街の雑踏で聞こえませんが。

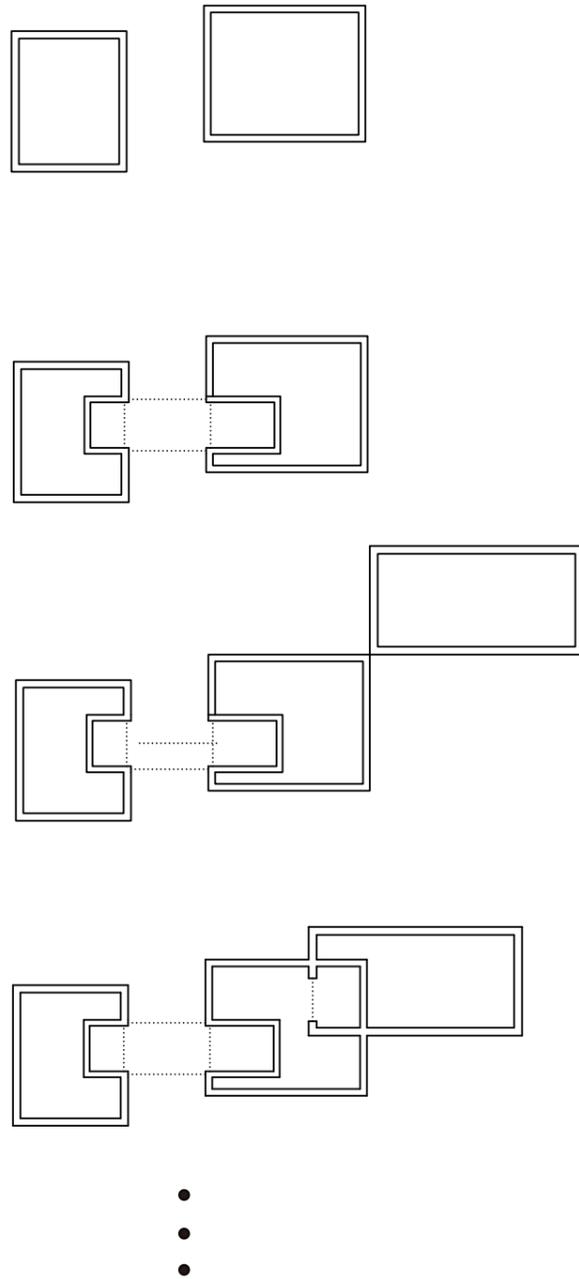


場所をうまくとりあい、好きな植物を植えたり、ありふれたもので部屋を飾ったり。そういったものから人々の生活を想像して行く。それは無意識に自らの生活と照らし合わせる行為です。なんどもなんども想像するうちにこの場所がどんどん特別な場所になっていきました。そうした住む人が好きに生きたあとに残される生活の痕跡や残骸のようなものをさらににじませ、あえて『切り離された場』としての文脈で保存できることはできないかと思いました。

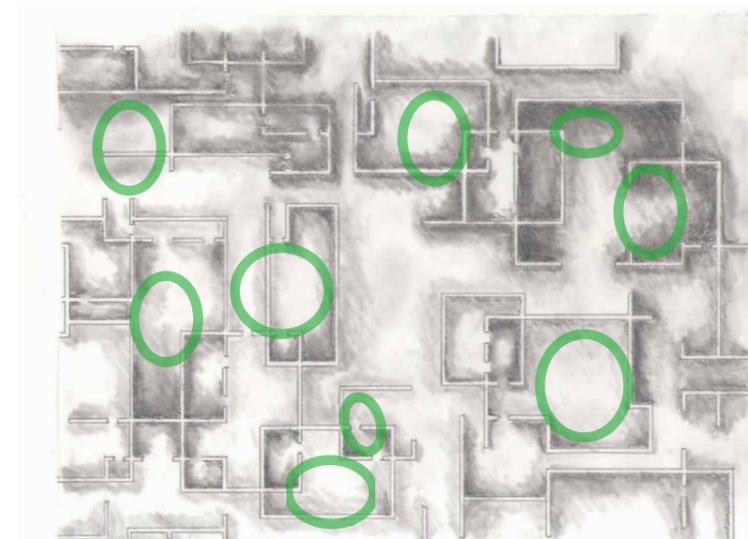
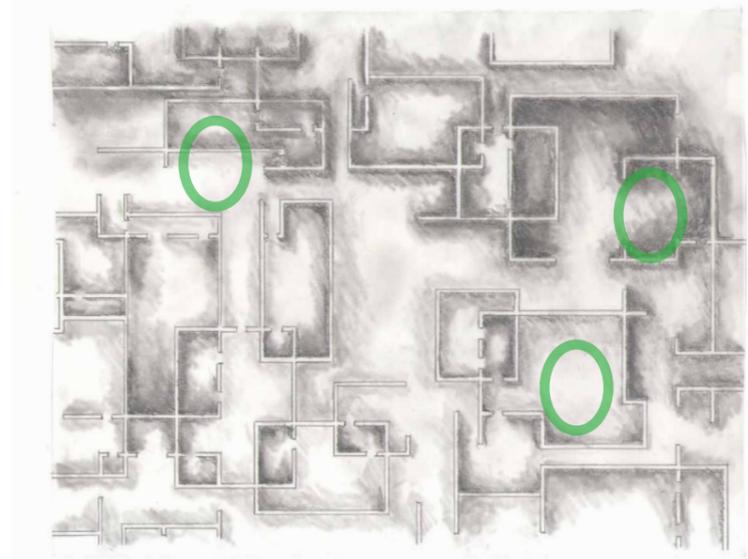
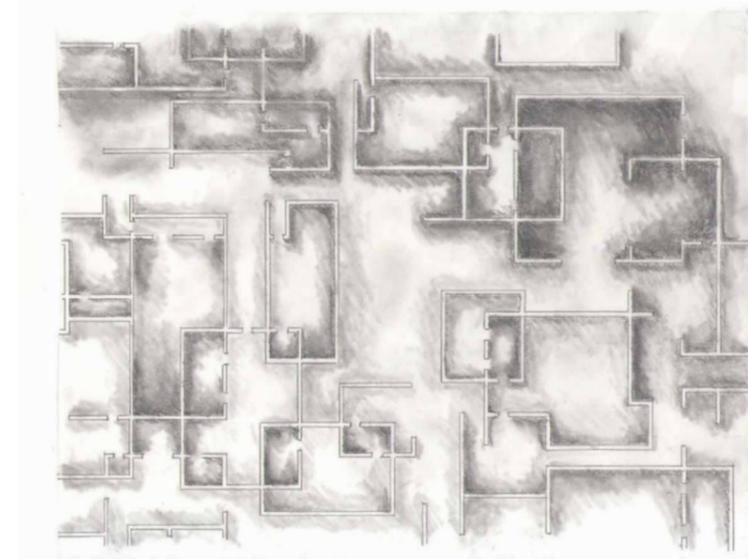




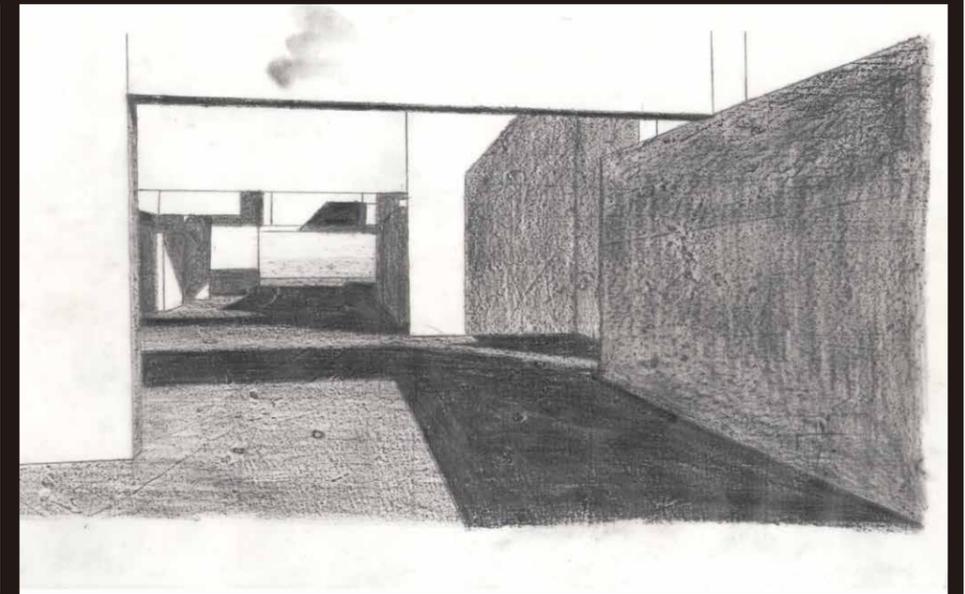
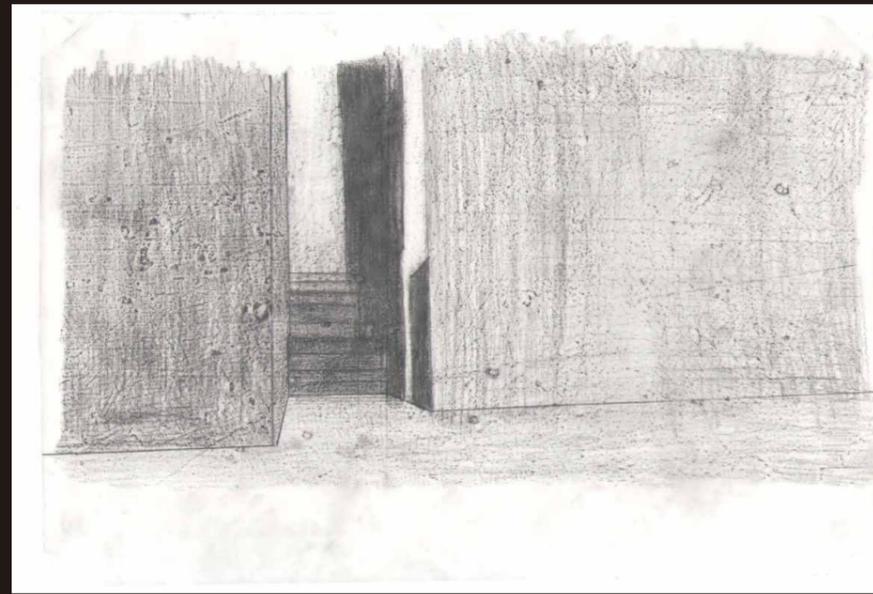
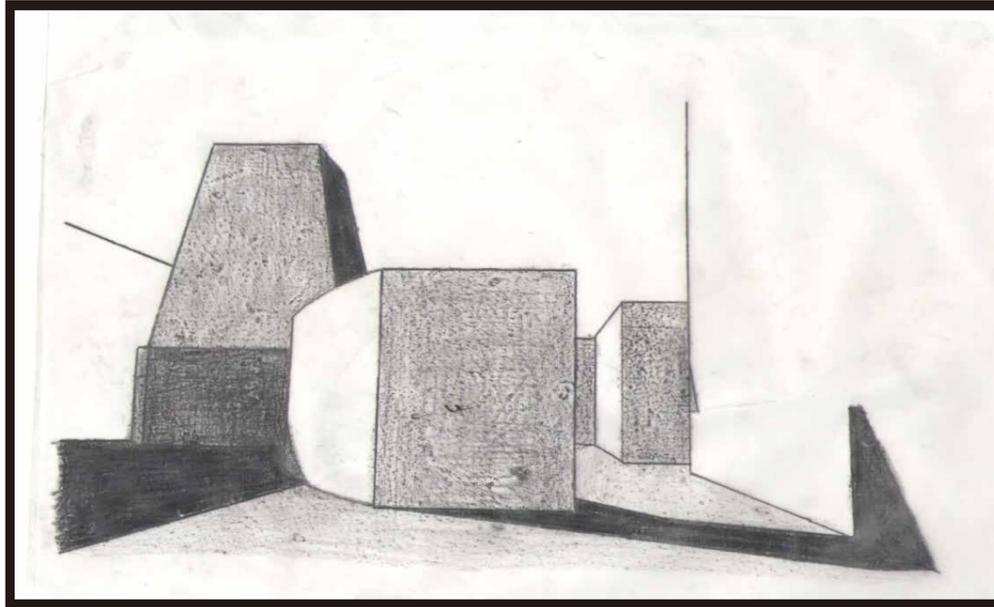
diagram



庭、共同空間を壁の貫入によって領域の質をより近いもの、親密な質に変えて行く。



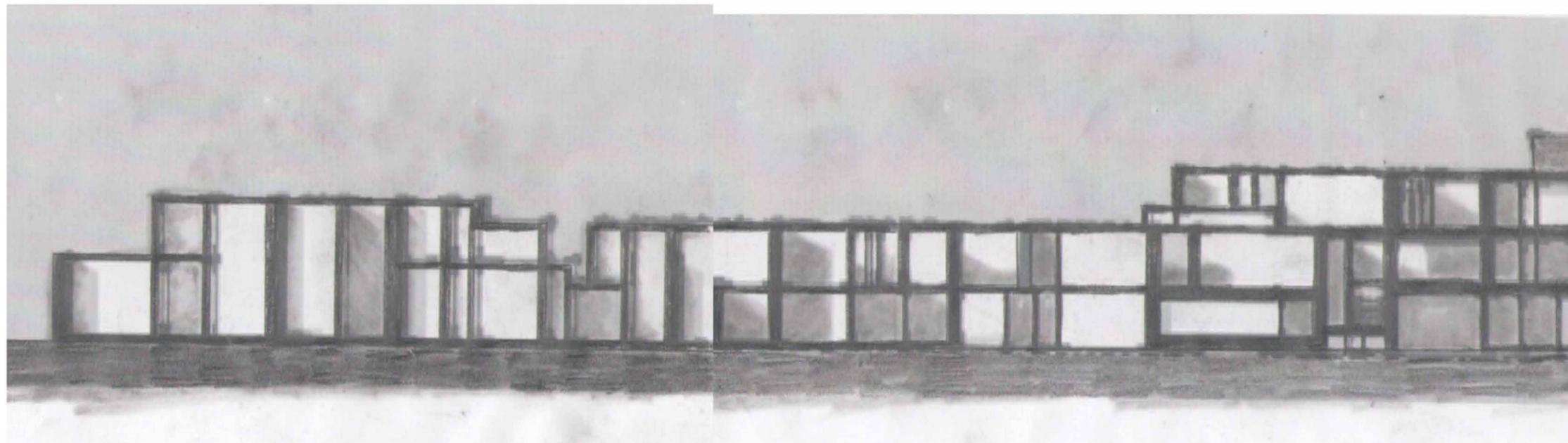
住宅は重なったり、離れたりして複雑な余白をと道を生み、住人たちは自分の家と隣り合った家とそれぞれ共有の庭を持つことで空いたところにそれぞれが使いたいように使うでしょう。

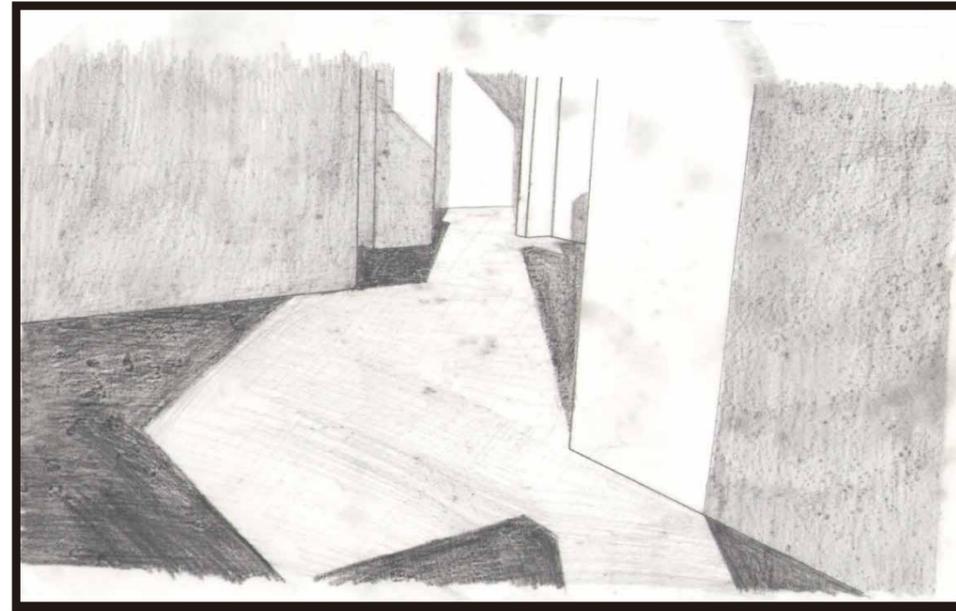
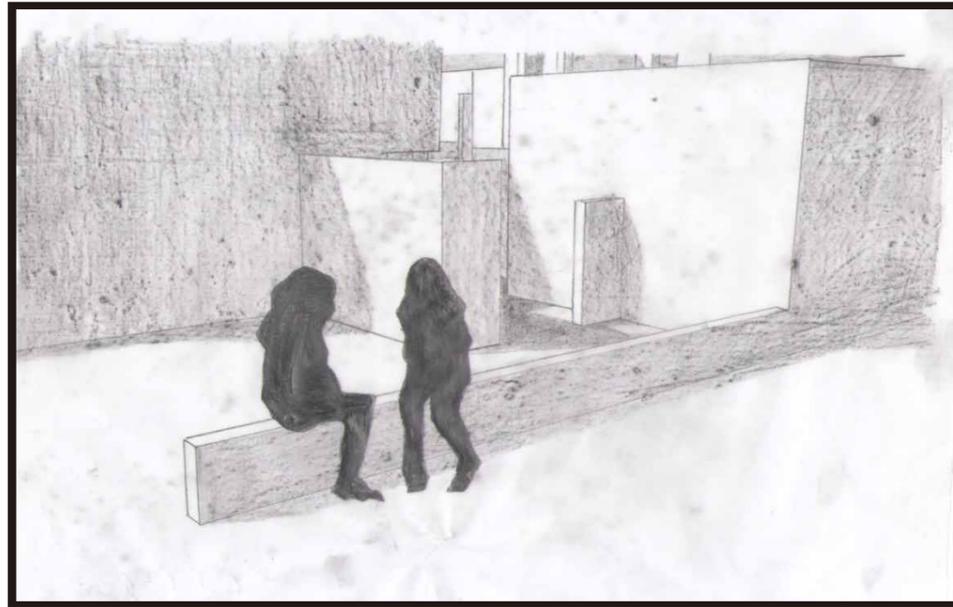


どこへつながっているのかわからない小道は外の人は少し怖くて使いません。  
いったいこれを抜けると何があるのか。この暗い道はどこへつながっているのか。  
いつか試したいと思うかもしれません。

住宅は重なったり、離れたりして複雑な余白をと道を生み、住人たちは自分の家と隣り合った家とそれぞれ共有の庭を持つことで空いたところにそれぞれが使いたいように使うでしょう。

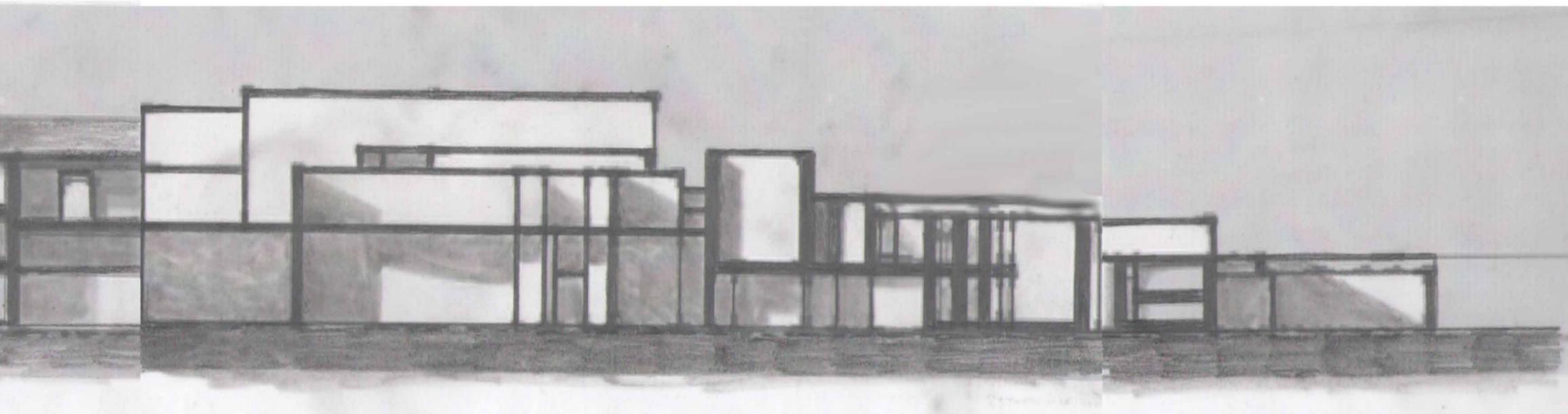
detail plan 1:100



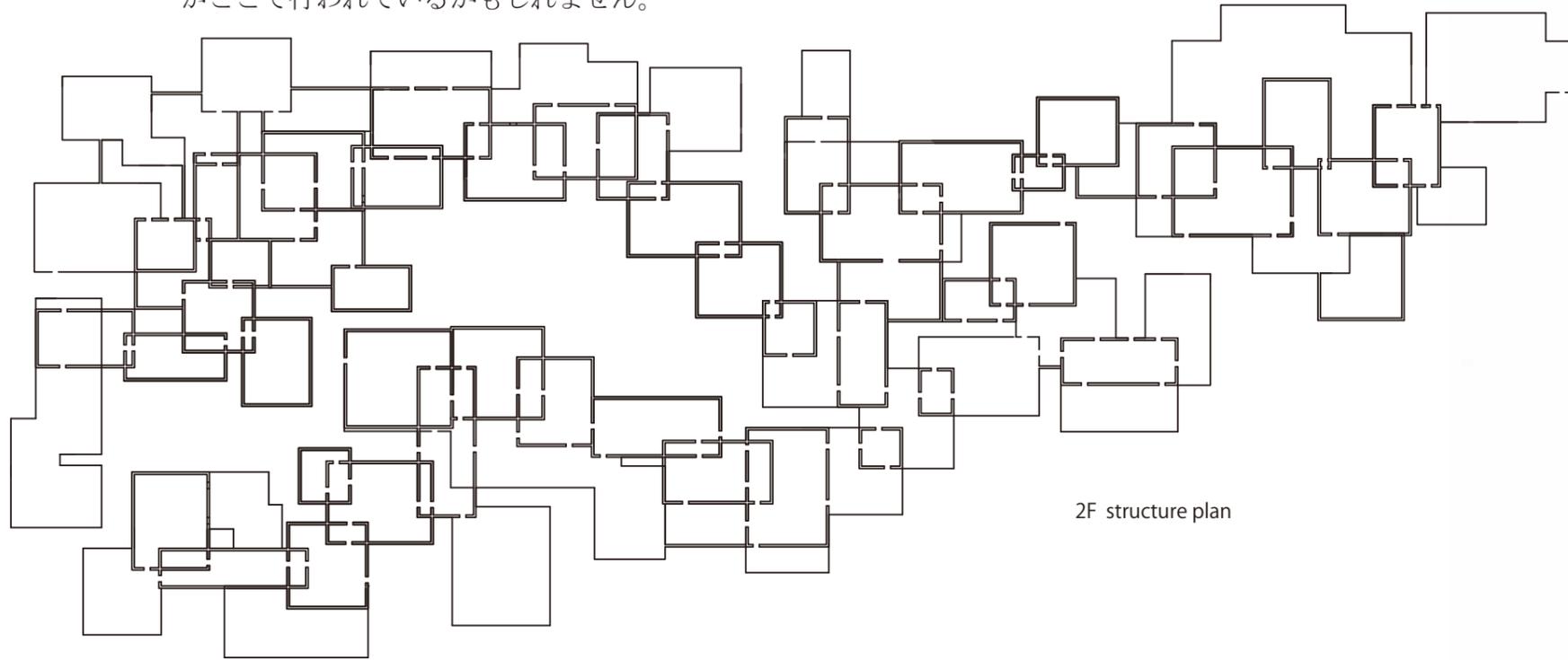


合住宅の周囲は低く座れる程度の高さの壁の続きが延長され、通り抜ける人、休憩する人、また食事をする人はすわれます。その時この住人たちの生活の手がかりを見つけられることでしょう。

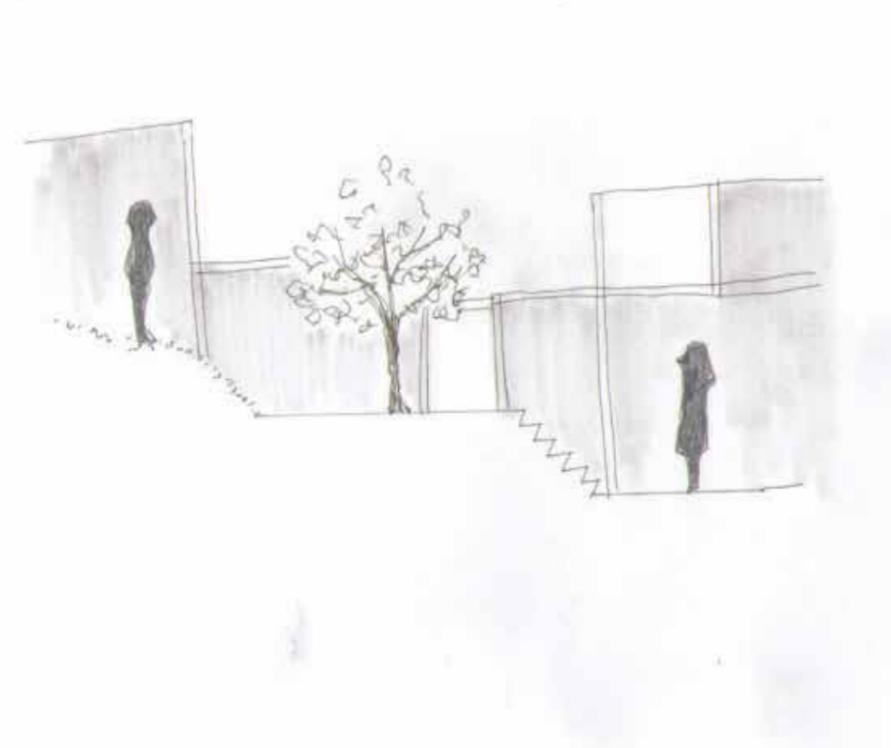
住宅は重なったり、離れたりして複雑な余白をと道を生み、住人たちは自分の家と隣り合った家とそれぞれ共有の庭を持つことで空いたところにそれぞれが使いたいように使うでしょう。はじめて入る人は迷ってしまうかもしれませんが、徐々にたくさんの抜け道を見つけます。



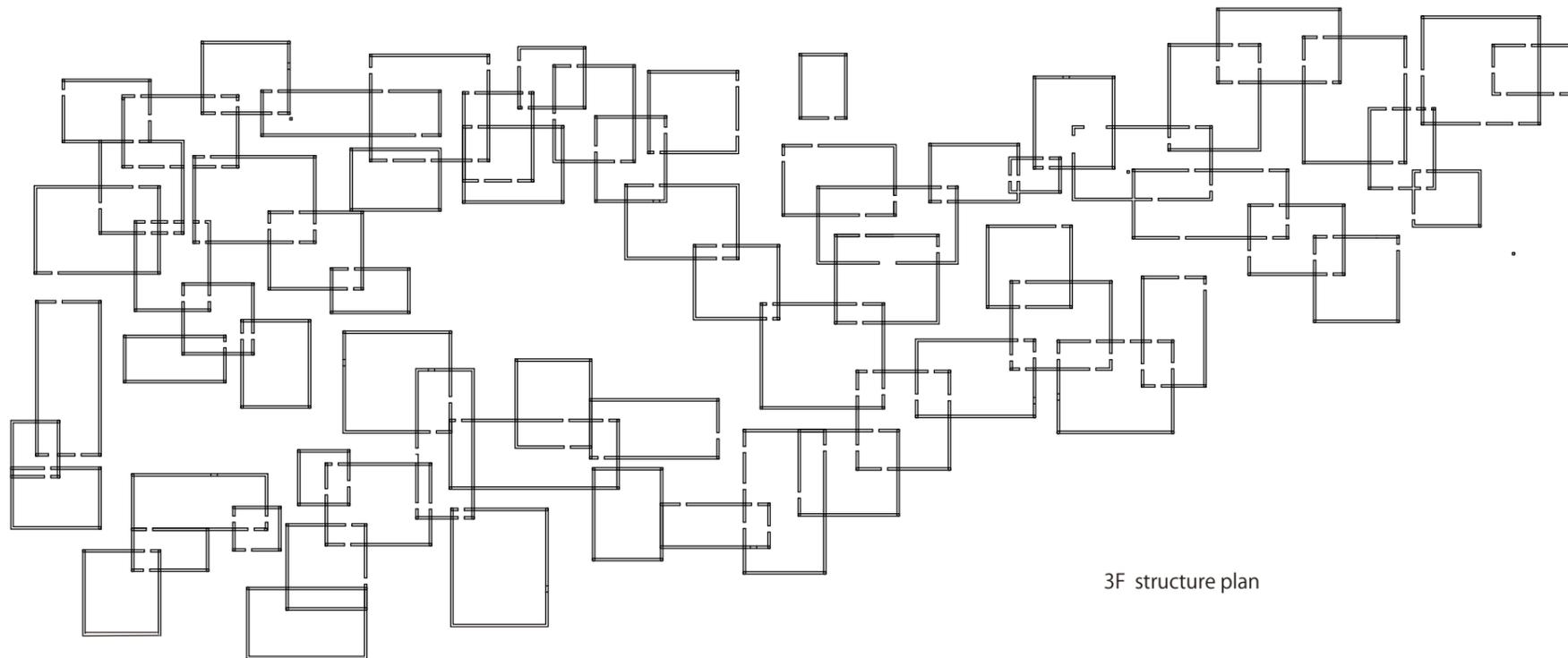
スラブをのぞいた構造です。今ある主な道を残し、集合住宅の中心にいくにつれて密度が増し、中央は住人たちのための広場になっています。そこに集会場と入れ大きな壁があります。この広場は道を通るだけでは見えません。広場には何が行われているか、どんなものが置いてあるのか、外からうかがい知ることにはできないのです。もしかしたら驚くようなことがここで行われているかもしれません。



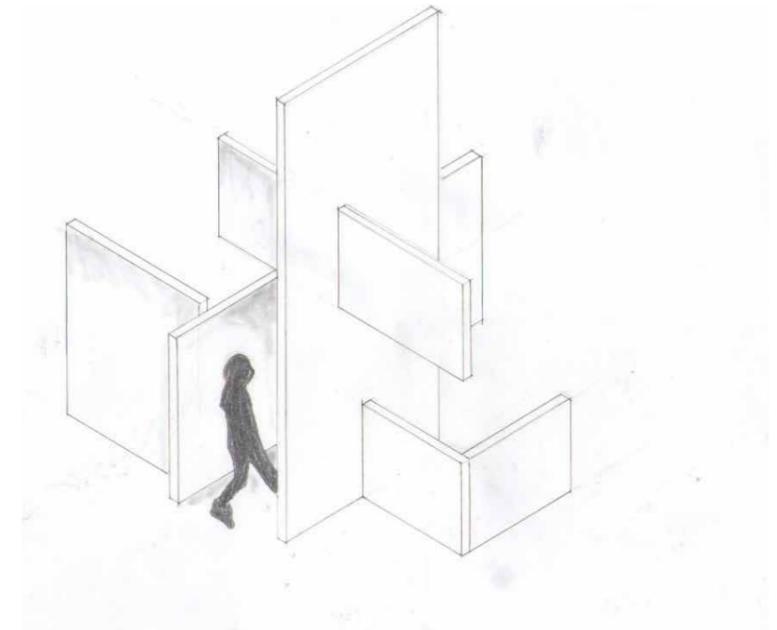
2F structure plan

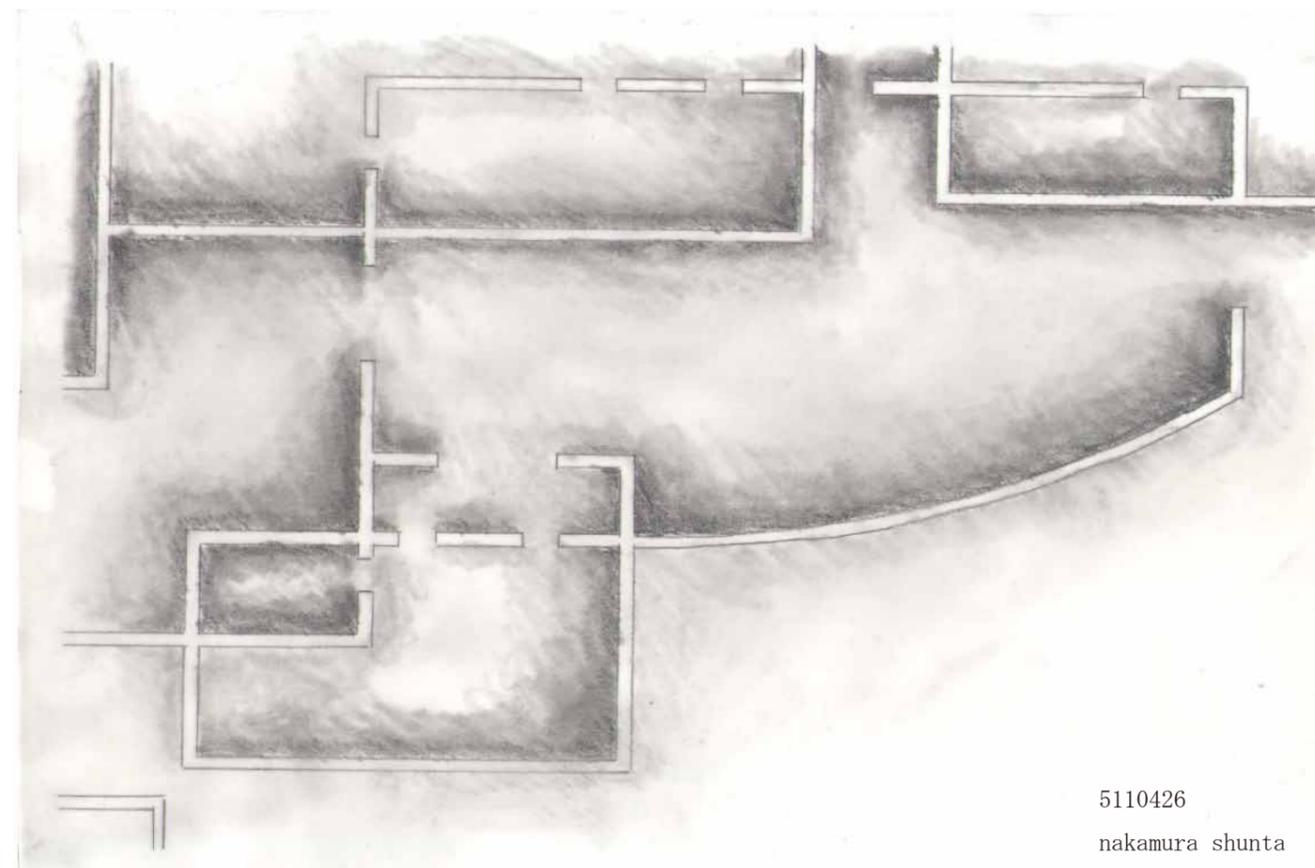
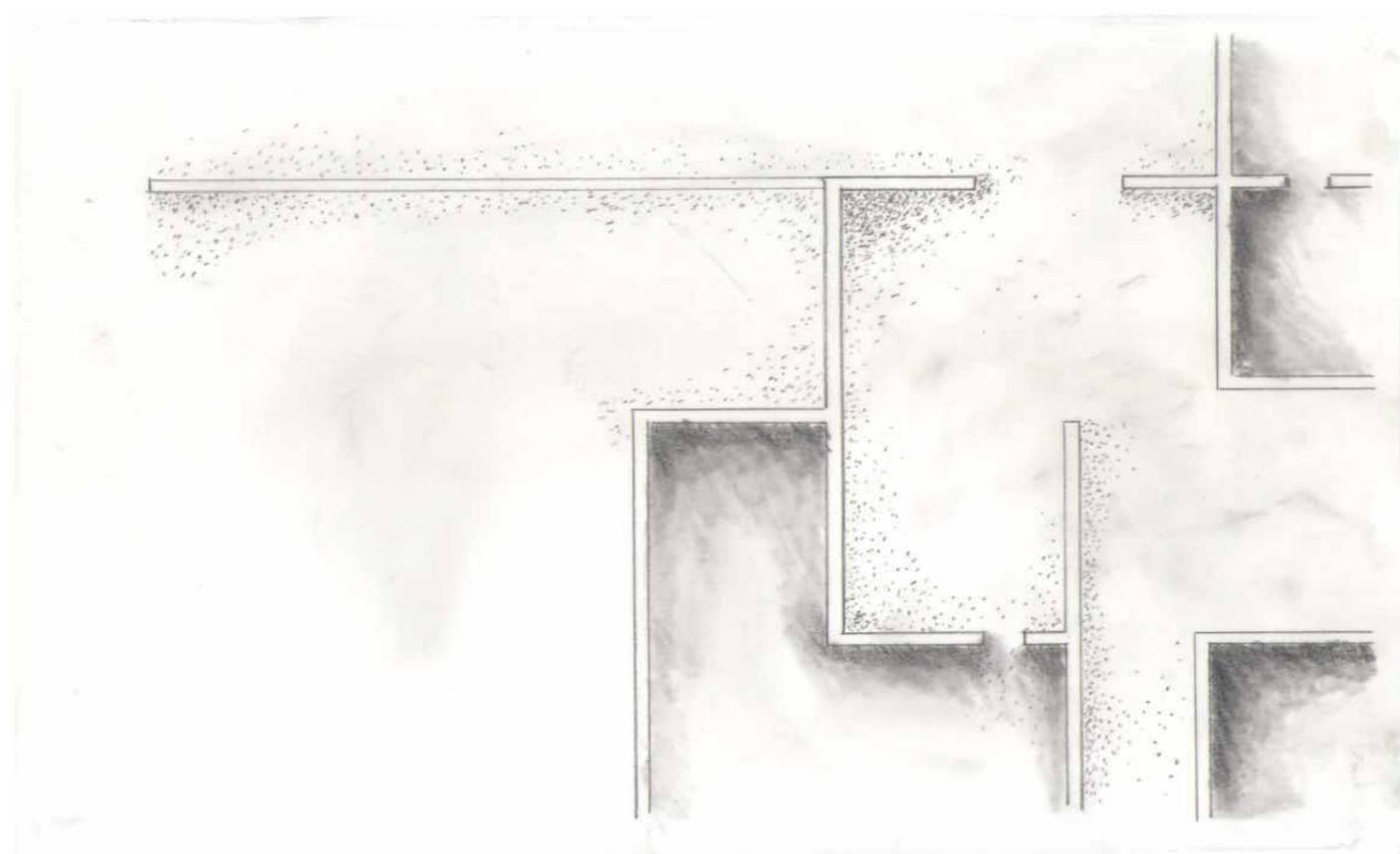
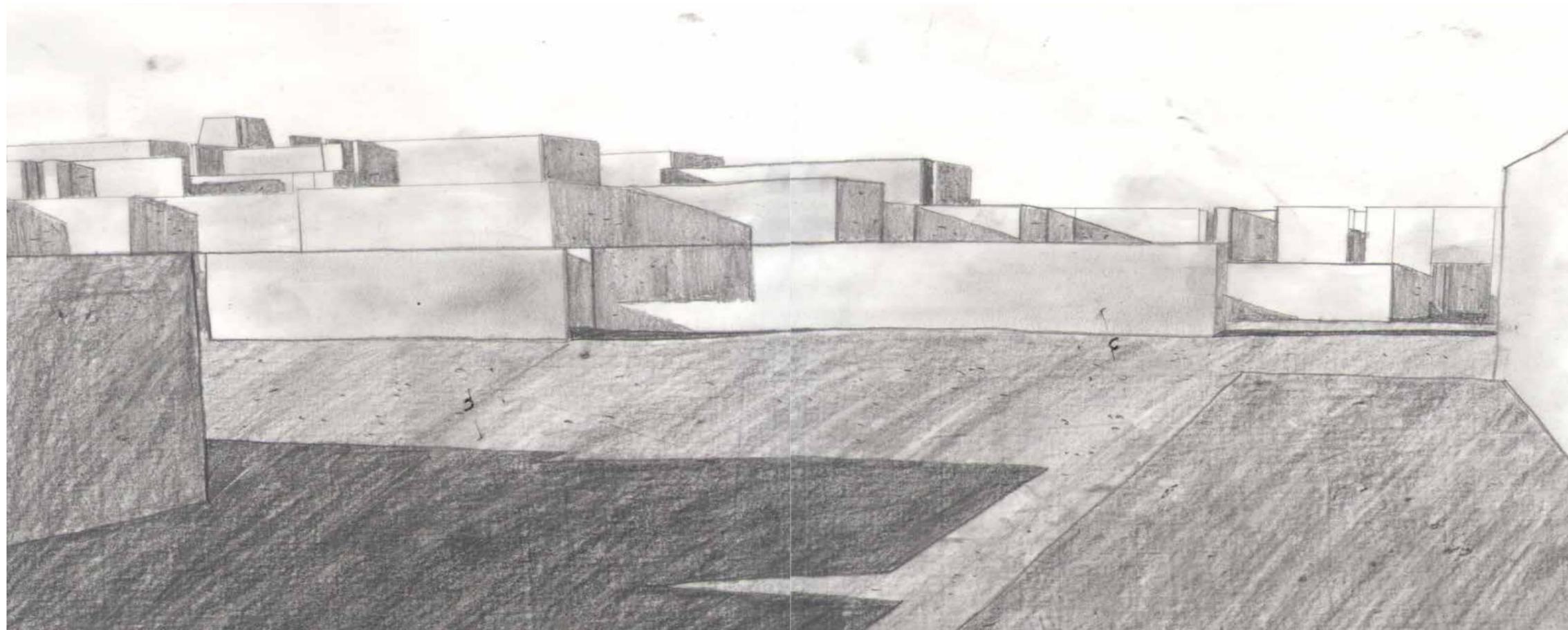


二階三階の壁の構造です。下の界の壁を使いながら違う構成しています。一階のスラブが庭となり、一階と同じような共有する自由な外部空間が生まれます。



3F structure plan





5110426  
nakamura shunta

壁は隣り合わせの家と共有空間を確保し、それが連続して行くことでこの集合住宅全体は一つの共同体となる。  
機能外の壁は人と人のちょうど良い空間をうみだしてゆく。